

■ Vol.1 親子の笑顔を、音楽でつなぐ（R5～R6 年度活用：Ohana リトミック教室）

「音楽の楽しさを全身で感じ、のびのびと表現できる子どもを増やしたい」

「子育てに前向きになれる環境を地域に広げていきたい」

そんな熱い想いをカタチにしているのが、Ohana リトミック教室です。親子のふれあいを通したリフレッシュの場や、乳幼児の健やかな発達を促す拠点として活動しています。地域の子育て環境の課題に、音楽の力で挑む。Ohana リトミック教室代表の佐藤さんに、お話を伺いました。



代表の佐藤伊代さん

ー 地域の子育て環境に、どんな課題を感じられていたのですか？

特にコロナ禍において、家の中にこもりがちになり、孤独や不安を抱えながら子育てをしているお母さんたちの姿を多く目にしました。私自身も子育てを経験する中で、育休中に訪れた「子育てサロン」という居場所のありがたさを身に染みて感じていた一人です。

子育てに翻弄されて、つい忘れてしまいがちな「子どもってかわいいな」「子どもと触れ合う時間は幸せだな」という気持ちを、改めて感じられるきっかけを作りたい。音楽なら小さなお子さんも一緒に楽しめますし、親子のふれあいの時間になります。そんな思いから、まずはリトミックの楽しさを知ってもらうため、無料の子育てサロンから活動を始めました。

－なぜ、「コミュニティビジネス応援補助金」に応募しようと思ったのですか？

市の広報紙で、このコミュニティビジネス応援補助金を見つけました。地域の課題解決を「ビジネス」として自立させることを支援してくれるというコンセプトが、まさに私の考えにぴったりでした。

ちょうどその頃、活動を続ける中で、単発のイベントではなく「習い事」として定期的に継続することの大切さを感じ、本格的な教室運営を意識し始めていた時期でもありました。生徒さんが増え、自宅での開催が手狭になっていたタイミングということもあり、家賃や光熱費などの「運営に関する経費」に活用できるこの補助金は、思い切って専用の教室を構える大きな後押しになりました。



優しく明るいお人柄の中に、やりたいことを貫く強さを感じました

－本補助金は、どんなことに活用されましたか？

主に教室の家賃などの運営費に活用させていただきました。活動初期は自己資金が少ないため、補助額の大きさに加え、「8割を前借（概算払）できる制度」には本当に助けられました。

また、補助金の活用には不安もありましたが、市の職員さんがとても親切に教えてくださいました。「イベント経費は別の補助金、家賃はこの補助金」といった賢い使い分けもアドバイスいただき、わからないなりに相談しながら進めることができました。迷っている方は、まずその道のプロである職員さんに聞いてみるのが一番の近道だと思います。

－ 2年間の補助金活用を経て、現在の活動状況を教えてください。

専用の教室を構えたことで活動の幅が広がり、現在は補助金に頼らず自走できる体制が整いました。そして令和8年度からは、新たな挑戦として「児童発達支援（療育）」のサービスを開始することになりました。

0～6歳は、人生の土台となる大切な時期。しかし、この地域には未就学児を対象とした療育の場がまだ少ないのが現状です。特性のある子どもは、習い事という場では難しい部分もあり、個人のペースで音楽と関われる場を作りたいと思い、「児童発達支援」に挑戦することに決めました。

また、支援者を育成することで、より多くの親子を救える体制を作っていきたいという思いもありました。「児童発達支援」の職員を雇用することで、人材育成にもつなげられると考えました。ビジネスとして継続させてきたからこそ、次のビジョンへ繋げることができたと感じています。



リトミック教室の様子

－これから「京丹後市で何かを始めたい」と思っている方へ、メッセージをお願いします。

私は子どもが0歳の時にこの事業を始めました。「子が大きくなってから」と後回しにするのではなく、家庭も大切にするという自分のポリシーを持ちながら、今やりたいことに挑戦することを選びました。お母さんにご機嫌で、やりたいことに向かっている姿は、家族にとってもきっと良い影響があるはずです。だからこそ、諦めずに挑戦してみしてほしいと思います。

また、ビジネスには苦手な経営の仕事もついて回ります。私は、とにかく周りの人に教えてもらいながらここまでやってきました。日本人は「人を頼ること」が苦手ですが、勇気を出して周りに相談すれば、案外みんな親身になって知恵を貸してくれます。まずは、市の職員さんに相談してみる！これが、やりたいことをカタチにする第一歩ではないかと思います。